

「会名変更」について

稲城市 足代 桂

会名を変えようという話が出ているのは、現在の会名が、当会が社会の中で影響力を発揮する上で与えている障害が、他の要素ではカバーし切れないうくらい大きい、という仮説に基づいての話です。

これには、右翼的イメージが強い、会名から活動内容および目的が推測できない、という理由があります。新規会員が集まらない、というが加わるとすれば、これは、上記二つから、「入る前に安心出来ない会には、入って来れない」という点で繋がっているものです。以上挙げた理由には、先号で澤井さんも、よくわかる、その通り、と同意されている所です。

そうすると、“完全無欠な名前などないのだし、新しいものもどうせ変えたいくなるのだから、今までのままで行こう”というのには、先記の仮説には全く答えていない事になります。先記二点は、澤井さんも同意されているくらいですから、実際に会名が大きな足枷になっている蓋然性はきわめて高いと思われます。会名が足枷だから改名しようというのに対して、足枷は確かだが現名でがんばりましょうというのには、意味になっておらないように思われます。

これは、例えば、「革命評議会」という名前があった場合、名前が革命評議会では誤解を招くから改名しようといった場合、“完全無欠な名前などないから現行名で行こう”と言うのと同じで、理由となるべきものに全く答えていないものです。現行名で行こうというのであれば、最低限、上記仮説が確からしくないという事を証明する必要があります。

変更反対という論も何例かありましたが、この点で不合格です。総会で「大前さんの血が流れているから当面静観してほしい」とおっしゃっていた方の話に代表されるように、気持ちはわかりますが、私の記憶する限り、現名を維持すべき、という論は、皆客観的論理的に理由が説明できず、情緒性、主観性説明に止まっていたように思われます。

当会は、「都民の会」となる前の創始者の大前さんがB型であったことも影響していると思いますが、考えに柔軟性がある一方、一步一步着実に積み上げて考えるような客観的厳しさ着実さが、伝統的にかなり欠けていたように思われます。主観性を脱する

という事は、周りをよく観る、そして論理的に確実に考えるという事です。現名維持の考え方が、前記の仮説に仮に今のまま答えが出せず、「がんばりましょう」と言うに止まるなら、趣味の会ではなく、現実の政治に影響を与えなければ意味のない会なのですから、やはり会名は現実的客観的立場に立って、一般の人にわかりやすいものに変えるべきでしょう。

また、路線の問題については、私が総会で見た限り、すっかり決着がついているようです。当会を、大前さんのサポート的機関として考えておられる方は、現在ほとんどおらず、提携する場合はあるにせよ、基本的には大前さんとは独立した団体という考え方が、会全体として定着していると感じられました。ところで、「平成維新」とは、現実的に見て、社会的には實際上、大前さんの専売特許であり、一方、大前さんのサポート機関を主業務とするこの会、という可能性は、もう事実上、厳密に見てすっかりなくなっているのですから、その意味でも既に現実的に明らかにねじれが生じています。大前さんが自らの商標で活動する別団体に迷惑とを感じるのも、もっともな事です。こうしたことから言っても、いまだ「平成維新」でなければ...と言うのは、実際にはもはや存在しないものに頼りかかることのように思われます。

そういった意味からも、「平成維新でなければ駄目だ」というのは、もはや、現実性、客観性を欠いたものになっており、現実性、客観性、そして社会への影響力、首都圏他団体の動向から考えても、小異はあるとしても、会名称は、既に変えるべき時期になっていると思われます。

なお、別名を用いるべきだという意見がありますが、これは採用できません。現名を残して別名を用いるのであれば、二つの名前が並立する事になり、一般から見ても、会内から見ても、混乱が増幅します。典型的な「問題先送り」であり、「たして二で割る」手法であって、時代の流れに逆行するものです。当会は、曖昧な先送り政治を改めるために発足したのであり、自らやるなら、当会自体が改革の対象となってしまうでしょう。

「活動協賛金」ご協力をお願い

平成維新東京の活動をより活発にするため、「活動資金」を募集しています。

多くの皆様のご協力をお願い申し上げます。

記

協力金：1口・2000円（2口以上歓迎！）

郵便口座番号：00120-0-772036

郵便口座名称：維新都民

日本を国民主権の法治国にしよう。
人類の幸福の向上に貢献出来る事を願って活動する

HANAWA

花和グループ

(有) 花和ビル

(株) 花和

(有) パステルハウス

(有) 葉明